

復興計画 (案)	
	意見
基本方針2 暮らしとコミュニティの再建	
施策2-1 暮らしと住まいの再建	
2-1	家族みんなで一緒に暮らしたい。
2-1	珠洲にいたい、珠洲で暮らしたい(衣食住が満たされて、安心安全な、生き生きとした)。
2-1	珠洲が好き、珠洲とのつながりを持ち続けたい。
2-1	珠洲の家のリフォームを始める。
2-1	市民のつながり強化と若者の主体的な活動が必要。
2-1	親のサポートをする(親が生き生きと珠洲で暮らせるように)。
2-1	まちや地域が消えない、地域ごとの活性化。
2-1	区長以外に住民意見を集約するまとめ役が必要。世代交代の時期。区長には言いにくいことだっている。
2-1	市の復興のために、地元の若者だからこそできることを進め、珠洲を盛り上げる一員になる。
2-1	地域(在所)を超えたつながりが必要。例えば、A町で解決した課題をB町ですぐに解決できるように。
2-1	協議団体など復興について話し合い、行動するための団体が必要。
2-1	黒瓦のまちなみ再建。町の景観は自然や地形、文化などからできている。
2-1	町の景観をどう維持し、合意形成していくのか、みんなでつくっていくのが課題。
2-1	珠洲に住む人(住んでいた人)たちの納得感が高いカタチの復興を考える。
2-1	今の珠洲に必要なのは、ファシリテーター。
2-1	家を建てるのに規制はあるのか市の方針を知りたい。
2-1	巷では新築に150万円/坪かかると噂になっている。適正な価格を知りたい。
2-1	山を開いて平地にできないか。食料自給率を上げるべく農地を増やし、都市部から興味関心がある人を呼び込み、住むところを増やし、土砂災害などのリスクも減らせる。
2-1	母は30~40分かけてスーパーに行くのがしんどい。飯田が野々江に住みたいと言っている。
2-1	建築基準法改正(R7年)が予定されているため、適合するように修繕したい。
2-1	珠洲でも、北海道の「北方型住宅」を取り入れた家が良いのではないかと。(暖かい)
2-1	神戸のような都市型の住まいの再建と珠洲での再建とは違うと思う。
2-1	地盤により建て方も変わる。新築時の地盤調査には大体5~8万円程度かかる。市内ではすぐ対応できる業者が少ない。
2-1	例えば土砂崩れのリスクがあり、行政として安全な場所を示すことが難しいとすれば、地質調査費用に対して支援できるような制度を作ることが必要ではないか。
2-1	平屋モデルなど標準化モデルをつくり情報提供すればよいと思う。
2-1	商品としての「家」より、自分で建てたい(セルフビルド)。
2-1	セルフビルドチームをつくってはどうか。昔は隣近所で家を建てたり直したりしていた。
2-1	セルフビルドなどのグループは面白い。保険の問題などもあるので、専門家(外部)が加わり、サポートしてもらおうとなお良い。
2-1	セルフビルドだけでなく新しい取り組みがどんどん立ち上がっていくという雰囲気ができることが好ましい。復興とは国県市町による復興事業だけでなく、むしろ住民や民間事業者の力が重要。
2-1	「住まい」のライングループ(オープンチャット)をつくり、興味がある人に入ってもらいたい。
2-1	山や川の様子が変わっているが、ハザードマップは変わらないのか。
2-1	津波よりも土砂災害リスクが高いと感じているため、土地選びではハザードマップの確認を重視している。
2-1	土砂災害警戒区域に家があるが、本当は修繕して住みたくないという気持ちもある。安全な土地かどうか知りたい。
2-1	地震で地盤が変わっている。例えば、珪藻土質の地盤が流れ込んできているお宅があった。珪藻土質の地盤があると柔らかくなってしまふ。
2-1	市内で安全な場所はどこか知りたい。
2-1	安全な場所や調査の情報を行政が提供していくことが大切。

復興計画 (案)	
2-1	市役所の復旧復興本部のホームページに「国土情報センター」のリンクが張っており、ここからボーリング調査データを見ることができる。
2-1	震災後、家族は市内外に分かれて暮らしている。やっぱり家が広くて、自然が見えて、庭と畑がある珠洲で暮らしたい。半農半Xのような暮らしがいい。
2-1	半壊以上でも住める家がある。将来負債になるから、今公費解体が使えるから、将来が見えないからといって壊していて、悲しんでいる。本当は壊したくない人もいる。一方で親は壊したくないが、子は「誰が継ぐの」といい、解体するケースもある。
2-1	半壊以上の家と住みたい人のマッチングができないか。(解体リストと買いたいリストを利用して。)
2-1	0円譲渡をすすめたい。周りの人たちに、「解体するなら0円で渡そうよ。」と伝えているが、そういう人は出てこない。他の家は30万/月で貸してる、今潰すと得、など損得の話ばかりになる。
2-1	一部損壊、準半壊の人は費用がかさむ。何とかしたい。
2-1	同じ半壊でも大きな家の方が費用はかかるなどグラデーションがある。
2-1	半壊と準半壊の支援格差が広がっている。
2-1	土地のマッチングサービス(売りたい人、買いたい人)があると良い。
2-1	多岐に渡る支援制度の多さに、市役所職員の過労が懸念される。
2-1	自分の状況を入力したら利用可能な支援メニューが表示されるようなアプリがあると良いと思う。
2-1	現状の支援メニューに加え、将来的に独自の支援策が追加される可能性はあるか。
2-1	水害と震災被害の両方を考慮した罹災証明書の発行が始まった。その罹災証明書で受けられるのは震災の支援メニューのみとなる。後で水害の方で新しい支援メニューが出てくるかもしれないが、その支援は受けられなくなる。そうなるかどうか分らないという方がいる。
2-1	まちづくり協議会は、区長会で話がとまり、自宅避難者から意見聴衆がされておらず、一部の人のみで話している状態。改善されることを期待したい。
2-1	権利のある方がこう、活発に意見ができるような場所、それがまちづくり協議会であるが、そこにもっと取り残される方がいないような、ウェブ参加できるとか、今日の会合をヒントにして進めたい。
2-1	珠洲と金沢での二拠点生活を想定し、金沢には最低限のコンパクトな家、珠洲には大きな家を持つ。
2-1	二拠点制度について、税金関係の補助があるとよい。保育園・学校の問題や、住民票の問題も解決できるようになればよい。
2-1	昔から能登は出稼ぎ文化があった。今は廃れつつあるが都会から人が来て二拠点生活してもらえよう構築できると面白い。
2-1	みんなで家を所有する(共同所有/分散所有)仕組みをつくれませんか。都市部から地域にきたい人たちがいる。自然があり、畑があって滞在できるような。
2-1	家をシェアすることも考えられるのでは。例えば一人暮らしのおばあちゃんの家で若者が住むなど。病院に行きたいときに誰かいるのとないのとでは違う。
2-1	移住者は、結構キーポイント。外から目線で地域の価値を指摘してもらうことは大切。
2-1	珠洲の家は業者への貸し出しなどを想定した改修を進めていく予定。
2-1	外から来る若い子たちがより関われる、深くコミットできる仕組みやハードがあるとよい。
2-1	震災後、色々な人の話を聞いてると、心理的安全性とか、将来を描くときに、住まいはすごく重要なものなんだろうなと思う。
2-1	気候や風土に適合した家。日本海側独特の気候があるので、夏は暑くて冬は雪が降るところで、そういった寒さ対策や暑さ対策をしっかりと高機密の家
2-1	集落の関係性も大事にできる場所に住みたい。
2-1	命を守る家ということが1番大事。
2-1	自分のライフステージが変わっていくところで、ずっとそこに住み続けるのか、手放して小さい家に住みかえるとか、違う地域に行くという選択肢もあると思う。
2-1	住まいを再建するときにはリセールバリューを考えておいた方がよい。長い目で見たときに安心できる。
2-1	一緒に暮らす、プライベートも公の場もあって、何かあった時に助け合える、開け閉めができる箱みたいな感じの場所を自分も当事者として作ってほしいな。
2-1	東京と珠洲で行ったり来たりして住めたらと思う。
2-1	雨水濾過の貯水タンクやガスコンロ、薪ストーブなど、災害時に使える設備。インターネットやソーラーパネル充電可能なポータブルバッテリーも導入予定。
2-1	熱源エネルギーを独自で取れるといい。
2-1	オフグリッドなど自立して生活できる状況、施設、設備があるとよい。
2-1	住民と市外の人との潤滑油になるような役割を担う人が必要。
2-1	実家が珠洲なので、母が主に住む家。うちの母はちょっと軽い認知症というかそういう状態。集落自体がもう失われてしまうという状況で、母がこう命を全うできるような環境であればよい。
2-1	家族や兄弟が集まり楽しめるうちをつくりたい。楽しく暮らすというのが一番。

復興計画 (案)	
2-1	家を切り離して部分解体という手もある。例えば、損傷が大きかった箇所を切り離し、公費解体して、残った部分に水回りをいれて住めるように修繕するなど。
2-1	設計士に相談中だが、別の設計士さんに意見を聞くこともありかもしれない。セカンドオピニオンとして。
2-1	今回は残っても次に地震が来たらダメかもしれないので、なんとか強い家を作ることを修理するにしても1番に考えたい。
2-1	元々地震前から空き家が多くて、近所に立派な家があるのに、空いたままというのも多かった。誰かしら住み続けているような、家があるというのを維持していけたらよい。
2-1	命を守るというのはそうだが、何にもない日々の命をそこでいかに輝かせられるかもすごく大事。来るか分からない自然災害にずっと怯えて、そのためだけに家を頑丈にして窓のない家に住み、何かあった時は絶対に命が守れるけど、通常はどこか退屈、では全然意味がない。そのバランスの取り方を自分でも今さら探っている。
2-1	集落は若い世代が抜けてしまったので、どう仲間を増やしていくか、どうみんなで集落を維持していくか、災害から立ち直り、備えていくこと全てを独り占めしないで、この経験をいかにして外の人とシェアしていけるのかというところを大事にしたい。
2-1	家族で金沢に避難してきて、この先どこに住むかはまだ決まっていない。すぐ戻るのか戻らないのかも含めて、ちょっと今、未来の家のイメージがしづらい。家を建てるとしたらまず場所が決まってないとイメージがしづらいというところがあったのかな、全然イメージができない。
2-1	古い家を直して2020年からやっと住み始めていい家だなんて思うけど、そのいい家を、もっと満喫したかった。これから時間をかけて楽しめると思っていた。完全に元通りというわけにはいかないけれど、もう1回取り戻したい。
2-1	お祭りの時に近所の人が入らなくてこれオープンな形にしたい。なおかつ、自分たちのプライベートも守れるというバランスをうまく設計できると楽しいと思う。
2-1	中が(間取りが)可変できたらいい。年齢に応じて使い方が変わってくるので、例えば子供の年齢に合わせて、部屋が空いて、自分も年を取ってなど時代に合わせて可変していけるような間取りが設計できると面白
2-1	金沢に避難していて、最近焦りを感じている。珠洲にいないと分からないこともたくさんあり、すぐに戻りたいと思う一方で、山が崩れてきているなど早く戻らない点もある。焦らず決めていきたいと感じた。
2-1	金沢に避難しているが、金沢にいて未来に背を向けながら暮らし続けることができてしまう。金沢にいながらも未来のことを考えることが自分の課題。
2-1	自分も耐震のことを学びたい。勉強会のようなものがあると良い。
2-1	家族と復興計画策定委員会を開きたいと言っているがなかなか開催できていない。
2-1	新築住宅の坪単価上昇については噂も多い。何が本当なのか明らかにしたい。今度、ハウスメーカーに周辺住民へ説明する機会をつくってもらおう。
2-1	リフォームだと建築確認を出さなくてよいなどメリットはある。
2-1	大谷町では家財の再利用を進めている。支援に来た長野県の人が長野で蚤の市を開催し販売している。
2-1	文化の存続、祭りの再開(再建)。祭りは重要、祭りがしたい。
施策2-2 祭りの再開支援、文化財の再建	
2-2	文化の存続、祭りの再開(再建)。祭りは重要、祭りがしたい。
2-2	先人がつくってきた祭りを復活、維持していきたい。祭りがなくなったら今の小中学生も 戻ってこなくなる。祭りを通して地域のつながりを持続していくことが、大きな繋がりになる。
施策2-3 子育て支援の更なる充実	
2-3	珠洲の復興には子ども中心の考えが必要。
2-3	出産可能な医療体制が必要。珠洲では出産ができず、健診も受けられない。市外で産んで戻ってきてくれでは辻褄が合わない。
施策2-4 学びの環境の再建	
2-4	学校の統廃合を希望する。
2-4	子ども世代への投資が大切。例) スポーツができる場所、地域クラブづくりなど
2-4	子育て、教育、子どもたちの人材育成に取り組むことが大切。
2-4	保育園児など今後珠洲を継ぐ子どもたちが、珠洲をふるさとだと認識する前に離れてしまっていることが大きな問題である。戻ってきやすい教育環境を整える。
2-4	学校教育において、自然と地域とのつながりがあることを大切にしたい。
2-4	子育て世代にアンケートはとったか?取っていないため、取る必要があると考える。
2-4	行政と市民で学校や子育て環境について議論する場が必要。
2-4	珠洲で子育てしたいとは思えない。いろんな物事や経験の機会が少ない。
2-4	特色のあるコミュニティスクールを伸ばしていく。
2-4	学校教育では、最低限の読み書き計算、社会性(コミュニケーションの力)など義務教育の質を上げる。

復興計画 (案)	
2-4	どうやったら珠洲を好きになるか=郷土愛の醸成を学校や地域でどう行うか。<郷土愛の3つのポイント) 地域のことをよく知ること、知った上でそれを作りあげた先人に感謝すること、その地域づくりに自分がちゃんと関わること。
2-4	地域と連携し郷土愛の醸成は地域で行う。
2-4	昔から変わらない子どもの評価制度が微妙だと感じる。例えば、図工に5段階評価をつけるとか。新評価制度があってもいい。
2-4	先生に期待しすぎ、まかせすぎな保護者が多いと感じる。過度な期待が先生のプレッシャーになっている。学ぶことについて、先生も生徒も保護者も互いにフラットでリスペクトが必要。
2-4	いまの学校では行かせたいと思わないので、教育移住とかを考えるならまち全体でつくっていかなければならない。前と同じことをやっていくのであれば、20~30年変わらないまま繰り返していく。
2-4	制服はなくてもいいのでは？
2-4	一人一人保護者と面談をして通知表を渡すことはとても丁寧。都会だとそうならないのでは。
2-4	子どもの想いに「できない」ではなく、できるようにするにはどうしたらいいか考えたい。
2-4	子ども目線の意見を大事にしたい。例えばアンケートとか。
2-4	セーブザチルドレンのアンケートを参考にしよう！遊ぶ場所がなくなったとか、こういうことがしたい！とか書いてある。
2-4	地域の人顔が分かるとやっぱり安心感がある。
2-4	子どもは親の影響を受けやすい。親がいまの珠洲をどう思っているのかが重要。珠洲を好きになるにはどうしたらいいか。自分たち大人が生き生きとして、人任せにせず、ちゃんとやるのが1番なのでは。
2-4	今珠洲に居る子も、兄弟が進学するタイミングで市外へ行くとか次の子が生まれる頃に市外に行くとか、そういう話を結構耳にする。
2-4	子どもたちが奪われてしまった公園や運動場の代わりにするものを探す。
2-4	里山里海の活動と子どもの学びをどうつなげていくか。
2-4	大人と話したい、学習機会が欲しいという要望がある。ちゃんと応えるような体制が喫緊の課題。たくさん子どもたちが集うにはどうしたらいいかを考えないといけないんじゃないかな。
2-4	変わった大人(一般的な仕事ではない生業をもつ)やモノに触れるチャンスがあるといい。面白い大人やロールモデルとなる人が少ない。⇒よりすぐりの変わった大人がいま珠洲に来ていて、そういう人に出会えるチャンス。
2-4	自分で切り開いていく力(人間力のようなもの)が必要。先生に言われたから、みんながやっているから、ではなく自分で考えてとなげかけていくことを大切にしている。
2-4	移住定住促進や人口減少に抗うために、子どもたちに還ってきてほしいと思うのは郷土愛の搾取につながると良くない。本人の幸せや自己実現のための郷土愛と考えたい。
2-4	子どもに多くの選択肢を与えたいと思う一方で、限られた環境の中でどうするのか生きていく力を養うことも大切(例えば、冷蔵庫にあるものだけで料理をつくる感覚)。
2-4	人間力と新しい価値を生み出す力とコミュニケーション能力とチャレンジ精神を養う。
2-4	「集約化しつつもコミュニティは維持された町」珠洲の生業、文化、自然が次の世代にも受け継がれてほしい。
2-4	良く聞く意見として、同じ境遇で顔見知りが多い場所は多少不便でもずっと住み続けたい場所になる。一方で僻地に一人で暮らしていると除雪や草刈りなど維持管理コストがかかる。学校も分散しすぎると同級生がいなくてキャッチボールもできない。適度な集約化と分散化が実現してほしい。
2-4	小学生は大人と良く話す子と地域との交流が全然ない子とでは感覚が違う。たくさん大人と関わって学ぶことが多かったのだと思う。フェーズに応じて子どもの教育も変えていく必要があると思う。
2-4	学校を見ているとそんなに多くは変わらないのかなと思う。
2-4	少人数がネガティブではなく、ポジティブにとらえられるようなものってないのかな。
2-4	10年、20年後に中心になる子どもたちが大事。復旧復興が完了してからでは遅い。
2-4	ふるさとを好きになれる教育を大切にしてほしい。
2-4	子どもたちが珠洲で過ごして、仲間と思い出をつくれる環境を大切にしたい。
2-4	珠洲の良いところを残したい。子どもが震災後市外の学校(30人/クラス)に行ったが、やっぱり珠洲の学校がいいと言って戻ってきた。少人数の方が雰囲気良かった。
2-4	義務教育学校に魅力がある(珠洲に義務教育学校が出来たと聞いてUターンした)。少人数の丁寧な指導など。一方でできた当初より魅力が薄まっている(先生方の入れ替わりによる意識の希薄化?)
2-4	人数が1ヶ台は少ない。一人ひとりの役割が多い。先生の目が行き届きすぎて自主性が育ってなさそう。できることが限られるという課題はある。
2-4	自主性、当事者性、郷土愛、多様性などがキーワードとなる。
2-4	学校教育について中長期的に考える視点を持つ。全国の先進事例から学び、考え、話し合いながら模索したい。先進事例のコピペではなく、珠洲ならではの環境をつくる。
2-4	珠洲ならではのオリジナリティ(特色)の追求を大切にする。
2-4	学校や教育環境を話すことは、子どもたちの大事な時間を考えること。行政だけでなく、市民の参画ができるよう促し、一緒につくりあげていきたい。

復興計画 (案)	
2-4	先生方も楽しく、ポジティブに働ける職場環境になればいい。ポジティブにコミュニケーションをとることで、子どもたちにもいい影響があるのでは。
2-4	統合とか、大人数、少人数など正直どうでもいい。形より中身。環境が大事。人口や市の財政状況等の都合により変わっていく。子どもたちに寄り添える、先生が楽しく働ける、子どもたちの知性を伸ばす、尊重する環境。それも、いまではなく数十年後の知性を伸ばしてあげられる環境をつくりたい。
2-4	リーダーを育てる教育。(氷見市を参考) みんながリーダーを経験する環境が大事。
2-4	子どもたちが意見を言い合うときは大人数の方がよさそう(多様な価値観に触れる機会)。例えば日頃いろんなところにいる子どもたちがオンラインで交流し、必要に応じて1か所に集まるような体制をつくる。
2-4	部活の選択肢がない⇒スポーツクラブがあってもいい。運動部・文化部の地域移行が進めば地域との交流が盛んになり、豊かな環境になるのでは。
2-4	自然環境と人と人との距離が近いことが良かった。
2-4	都会と田舎の交流。都会の方が選択肢はある。相互に体験する機会があるとよい。
2-4	学校統廃合について、すぐに統合をするのは現実的ではないが、現状を放置していい訳でもない。ハード面はすぐに対応できないものの、ソフト面での何かしらの工夫や対応が必要。
2-4	市公認のオルタナティブスクールの実現。学校それぞれに特色があり、選べるようにしたい。
2-4	学校が統合したら地域で育てられるような仕組みを、分散したままなら、例えば体育の授業だけは全校集まってやるなど、どちらのカタチになっても、課題に対して解決する方法を確実に取っていくことが大切。
2-4	学校統合のいいところは、①子どもが集団の中で多様な価値観に触れ協力し合い切磋琢磨することで能力を伸ばすこと、社会性を身に付けること②友人が増える③部活動の選択肢や集団学習が満足にできる。地域に残るいいところは、自宅からの通学距離が近い。
2-4	いま、珠洲を出た家族(子どもたち)が戻ってくるにはどうしたらいいか考えたい。いま、珠洲にいる子育て世帯が困っていること、不安に思うこと、こうなりたいと思う声を拾い、その環境を整えることが重要。
2-4	今珠洲に残っている人は公務員も多い。公務員は声を上げにくいのでは無いかと思うので、そういう保護者の意見を集められないかなと思う。教育のプロの見解をもらいながら話し合っていきたい。
2-4	航空学園のように県外から子どもたちが夢のために進学している。珠洲の良さや魅力を活かして専門学校など設立できればいいな。
2-4	「応答性」を大切にしたい。声を聴くこと、声にならない言葉を受け止めること、動くこと。
2-4	動ける、遊べる場づくり(グラウンド含む)など、今の子どもたちに対してできることを早く対応していく。空き地に土管があるでもいい。子どもたちと一緒に遊び場をつくれるといい。森なのか、畑なのか、交通手段は大人が考える出番。
2-4	周りの子育て世代に聞いてみた。<珠洲を出るか迷うポイント>安全な遊び場がない。放課後両親が帰るまでの居場所がない。少人数すぎて良い環境ではない。一刻も早く学校統合してほしい。
2-4	学校がすでに統合されて無い地域、例えば狼煙地区などは地域として廃れているかというところではない。むしろ主体的に活動されていて元気な地域だという印象。そこに住む個人の影響もあるだろうけど。一方、直地区は人は多いけど、アクションは起こせていない。どの地域も潜在力はあって、アクションを起こすコト、人が大切。
2-4	子どもの困っていることを一番知っている先生方の意見を、声を拾うことが大切。
2-4	都会は塾やクラブがあり選択肢はあるけど、珠洲にはない。教育格差=親の収入なんて言われたりするけど、それを珠洲でどうやって、学校教育と、地域と、家庭で役割分担してやるか。学校教育ではとにかく基礎学力を身に付けることが重要で、その他のことは地域でやろう!とか、学校教育に多くを求めすぎない。全国的にも先生は大変と話題に上がっているんで、どうやって分担するかが重要。
2-4	先生たちの現場の声がここに無い。でも声を上げにくいのかなと思う。現場で考えたり、悩んだり、試行錯誤していることがあると聞いている。また、学校が分散していて、先生一人の役割が多い。生徒指導とか教務主任とか、そっちで手一杯で勉強を教えたくてもその業務に追われていたり、調理員も不足している。学校運営体制にガタが来てる印象がある。
2-4	以前、PTAの立場で先生方にどういう考えがあるかと聞いたが、管理職を通さなければ答えられないと言われたことがある。本音の話が聞けない。管理職だけで色んなことを決めていく感じがする。
2-4	自分の意見や気持ちを安心して発信できる、表現できる環境がすごく大事だと感じる。自分と違う意見や環境に対して理解しようとする気持ちや姿勢を見せることが未来にとって大切。
2-4	(子育て世代に)アンケートを取ればいいと頭でっかちになってたけれど、色んな人の意見を聞いて仕切り直せばいいなと思いました。
2-4	保育士さんの意見も聞ければいいと思う。
2-4	本会のスピンオフのようなかたちで「教育」をテーマにした会を今後も継続して開催できればよい。
2-4	地域の私たち一人ひとりが子どもたちの未来を考えていくことが大切。
2-4	地域に育てられたと感じるから戻ってきた。そういう環境が大切。
2-4	子どもと地域の関わりはとても大事だと思った。学校は地域のモノではなく、子どもたちのためのものだと感じた。
2-4	子どものためには、ゆったりとした時間が大切。それが子どもの主体性を生む源になっているという風に考える。親子議会やセーブザチルドレンのアンケートを見ていると、子どもたちが自由に遊べなくなった場所に代わる何かがいると思う。
2-4	子育て世代は都市部だと体験できないようなことが珠洲だと体験できる
2-4	珠洲の先生たちは、震災後、学校同士で協力して授業や行事をしている。それはこれからの教育モデルになっていくと思う。

復興計画 (案)	
基本方針3 生産性の向上を図るなりわいの再建	
施策3-1 被災した事業施設等の早期復旧・復興支援	
3-1	事業再建目処をたてること。事業再建による復興の基盤づくり。
3-1	あみだ湯のような人が集まる場所を守っていききたい。大切にしていきたい。
3-1	自分の生活基盤を整え、自分の活動をちゃんとやること、特技を磨くことが大切。
3-1	建物や設備などの公費解体が進まず再建が遅れている、見積取得に時間を要する、建築資材の高騰、人手不足。
施策3-2 事業再建までの支援	
3-2	「仕事を失った」「お店をやりたくてもできる状況じゃない」などの問題を抱えている。
3-2	失職者への支援が必要。
3-2	自分で立って歩かないと。珠洲には面白い人たちがいるなあとと思われるように。
3-2	今までのなりわいのフォローと新しい種をつぶさないこと。
3-2	支援者や首都圏のバイヤーと繋がること、今までと異なる販路で販売することなどで外貨を稼ぐことでプラスを生み出すと考える。
3-2	副業人材を通した問題解決や外部との関係づくりを支援。
3-2	ポテンシャルをどう活かすか考えることが復興であると考えている。
3-2	色んな制度があるのでその制度を企業は調べて、取りに行くこと。市役所や商工会などは情報をきちんと発信することに双方努力できるとよい。
3-2	東日本大震災の時は、事業者の再建のため遊休資産のマッチングが行われ、全国から集めたものを活用した。
3-2	従業員が後継者となり、なりわい再建補助金を申請したが、経営者がすでに廃業届を出しており利用できなかったケースがある。(東日本大震災の例)
3-2	経営者がなりわい再建補助金を活用して建物等を修繕した後、病気となり、第三者へ事業を譲って継続させた。補助金返還義務は無しだった。(東日本大震災の例)
3-2	なりわい再建補助金を利用したが経営者である夫が亡くなり、妻が廃業したとき、妻に返還義務が生じた。(東日本大震災の例)
3-2	市外事業者への管工事の依頼について、県が移動費や宿泊費などを助成してくれるが、地場業者で請け負い市外事業者に委託するルートでは助成されない。なるべく地場業者に施工してもらいたいが、人手不足で作業が進まない。
3-2	東日本大震災の教訓として現地の商工会議所からのアドバイスは「とにかく売上をあげよう。」だった。再建には時間がかかる。
3-2	資金調達の方法が多様化した。社会的価値のある事業には支援してくれる人がいる。
施策3-3 農林水産業の再建	
3-3	海、船、港の安全確保。
3-3	市内の農作物や魚の価値を上げるには、宿や飲食店で提供するのがよい。
施策3-5 商店街・市街地の再建	
3-5	空港付近に新たな町ができるのは面白い。奥能登2市2町で復興を考える必要がある。行政同士での連携が難しくても民間同士なら可能か。
3-5	仮設店舗を利用できる事業者を新設会社もOKにして欲しい。
施策3-6 観光産業の再建	
3-6	食べ物は若者問わず楽しめる。珠洲にある美味しいものを若い人たちは食べていないのかもしれない。市役所が食のイベントを開催するということではなく、誰かの家にふらっにご飯を食べていけるような機会があるとよい。
3-6	ヨバレの文化を今の時代に合わせてアップデートする。
3-6	若い人に宿や旅館などを託していく。新しく建てるより継承した方が保健所の許可を取りやすい。

復興計画 (案)	
施策3-7 新たな事業の創出	
3-7	スタートアップ企業への補助金の支援。
3-7	仕事の選択肢が少ないことが課題。(土木関係や公務員がおおい)
3-7	有名企業誘致による求人増加(人と土地の整備)。
3-7	珠洲で何かをやりたい人は大勢いると思う。
3-7	大地震に被災した今こそ新たな未来に向けて舵をきるチャンス。
3-7	林業×写真による場づくり。
3-7	珠洲にはリスクをとり何かを始める人はあまりいない印象。給料が安いとか仕事が嫌だという声はきく…。チャレンジを後押しする役周り(組織など)があるといい。
3-7	副業みたいな感じで。稼ぐことをちゃんと考えてアクションを起こせばいい。お金と向き合う。稼ぐ=恥ずかしいという風潮があると珠洲の人はよく言うが今は稼ぐことを考えないと。
3-7	珠洲に戻り農家をやりたい。地産地消で直売できる方法を考えている。珠洲市全体でも経済が復活して売れる場所が増えればなと思う。⇒「場所も機械も余っている。一緒にやりましょう。」
3-7	氷見市の古民家ではいろんな人が集り、事業が生まれている。
3-7	オール珠洲産の原材料でスイーツをつくるのが夢。(復興スイーツ開発中) 耕作放棄地や空き地で小麦の代替品を作り、砂糖の代替品もつくる。あえて珠洲でしか販売しないなど高付加価値の商品を生み出してい
3-7	「自然」と「人」に魅力がある珠洲のファンをつくる。そのために石川に戻り、今後の活動を考えていきたい。
3-7	2月に珠洲の小学校に伺い、大人も子供もファシリテーターになるお手伝いをする。
3-7	新しい事業の種を蒔いて、小さくはじめる。
3-7	東京の新宿区に「れもんハウス」という場所がある。古い一軒家に色んな人が集まってご飯を食べる。しんどい人が泊まれるスペースもある。普通の家のキッチンでみんなでご飯をつくって食べる。行政とも連携。横の中学校の校長先生がふらっと夜来たりすることも。れもんハウスは、しんどい人だけではなく、ビジネスマンも経営者も本当にいろんな人がフラットに入るので、面白い。
3-7	厚生労働省に重層的支援体制整備事業がある。基本は、福祉の行政的な壁をとって高齢者福祉も、貧困も、障害も全部一緒に集るような場所をとという考え方。これをつかって居場所づくりをする人が増えている。
3-7	珠洲でもゲストハウスをやりたい。物件探し中。夏ごろOPENを目指している。エリアは飯田周辺がいい。ゲストハウスを起点に人の流れをつくりたい。
3-7	人を呼びつける、訪れされる魅力のある産物を磨き上げていくことをしていかないといけない。高くても、訪れてでも欲しいと思うものをつくりたい。
3-7	物語があるとよい。塩づくりで炭が海水の濾過に使われ、にがり豆腐づくりに使われているような、そういうストーリーを繋げて相乗効果を生み出すような事業の磨きあげ方をしたい。
3-7	外から来る人には色んな切り口、色んな角度のチャレンジをどんどんしてもらいたい。それを促す環境づくりができたらと思う。軋轢やゴタゴタが起きるかもしれないが、ここまで来たんだから、清濁飲むくらいの、そんな環境が5年くらい続くとよい。
3-7	「里山里海の営みがこんな風に循環しているよ」ということを外の人の中の人にも分かるようなものがあるといい。ウィンメルブック(文字のない絵本)のようなものをつくりたい。なりわいをやっている人の夢が可視化されることが必要。
3-7	事業者の新しいチャレンジを支援することにより、プラスが生まれればいいな。
3-7	海外の人(欧米人)の感覚や求めることを深掘りすること。刺さるものがあるはず。
3-7	若い人や移住者は珠洲の人が大切に培ってきた「生の体験」を求めているのでは。
3-7	集会所をシェアハウスにすべく、周辺住民とも話し合い動いている。

復興計画 (案)	
基本方針4 これまでの取組みを活かした魅力ある地域の再生	
施策4-1 移住・定住の促進	
4-1	若い人が増えること、移住者が増えること。
4-1	子どもも高齢者も住みやすいまち。
4-1	珠洲市外にいても珠洲と繋がっていたい。
4-1	珠洲が人口3万人まで増えるといいな(増えてもいまの良さは失われない)。
4-1	今珠洲に住みたいといい来る人たちがいる。住まいがないと断ってしまうと今後住んでくれないかもしれない。他の魅力的な土地にいつてしまう。
4-1	完全移住となるといくつもハードルがあるが、コリビング(シェアハウス+コワーキングがある家)やシェアハウスビレッジ(シェアハウスがいくつもある場所)があると地域に住みやすいのかなと思う。
4-1	つらい状況が続いている。愛する珠洲市に戻ってきたい!と思えるまちづくりが必要
4-1	珠洲に移住する。珠洲に惚れたのは「人」。あったかい。珠洲の人たちと一緒に何か面白いことがしたい。
4-1	自然が豊かで海も山もある。離れてみて恵まれた環境だったなと気づいた。
4-1	戻りたいと思ったときに仕事がないと感じる。
4-1	大阪に住んでいるが石川に帰ろうと思う。珠洲で何ができるのかを考えたい。
4-1	その場で採って食べられるのが珠洲のいいところ。こんなノウハウを引き継ぐ相手がいない。これをうまくつなげていくこと。今年は若い人たちと「なりわい」を模索したい。食と採ることをなりわいとして収入を増やしていきたい。
4-1	本当は言いたいこと、伝えたいことがある人はたくさんいる。いま、真ん中の世代が能登にはいないと感じる。新たな世代に対して我々は何ができるのか模索したい。
4-1	震災後、訪れた際に人手が足りないと感じて移住した。人のつながりが強いと感じる。儲けというより、人に喜んでもらうことに重きを置く会社が多いと感じる。
4-1	「仕事があるから住む」という時代から「暮らしそのものが魅力的だから住む」という価値観へのシフトも意識したい。
4-1	二拠点居住(二地域居住)しやすい仕組みができたらいいな。
4-1	自分は人が大好きだから、おじいちゃんやおばあちゃんの家でホームステイしたいなと思う。
4-1	年齢を超えたコラボや自給自足など珠洲がこれからの日本のモデルになっていけるとよい。
4-1	珠洲との二拠点生活を実現させたい。それに向けて準備する。(副業など)
4-1	潜在的ポテンシャルが高いと思う。金沢や加賀で暮らしていると珠洲に行ってみたいという声を聞く。
4-1	珠洲で暮らしたい、仕事は自分で何とかする人へのアプローチが必要。そういう人たちを自由にさせてあげる。「外から来た人やからよう分からん」とか、住民が、とかではなく外の人の中の人と一緒に頑張って頑張るムードができると良い。
4-1	夏に大学生が珠洲を訪れ、おばあちゃんたちと沢山会話していた。10~20代の若い子たちにはおばあちゃんたちも心を開きやすいのかも。そういう層を呼び込む。
4-1	血のつながりがなくても、珠洲のじいちゃん、ばあちゃん、とうちゃん、かあちゃんたちとも家族のような友だちのような関係が築けていけたらうれしい。
施策4-2 芸術(アート)を活用した魅力づくり	
4-2	アートによるまちづくりが気になる。
施策4-4 世界農業遺産など「珠洲ブランド」の価値向上	
4-4	里海里山が守られる、自然と共存しているきれいな珠洲。
4-4	珠洲の魅力は豊かな自然と人。
基本方針5 DXの推進による「つながる社会」の実現	
5-1	都市的になりすぎると魅力(自然や人間らしい営み)が減る可能性がある。
5-1	子どもによりIT(情報)格差があると感じる。インターネットをうまく使える子、使えない子と格差ができないようにしたい。
5-1	やむなく市外へ出た世帯や子どもたちとの交流の機会があるとよい。(転校先の学校と珠洲の学校がオンラインでつながる、一緒に授業を受けるなど)

復興計画 (案)

行政や会についての意見

<行政への意見>

- ・行政と市民間のコミュニケーションが必要。
- ・市民の声をどう反映させるのか。
- ・市民の意見が反映されていることが分かる仕組みづくり。
- ・場所づくりをしている人を行政が評価し、発信する。
- ・外部の人が入って地域の声をまとめていく。
- ・市から委託する (声を拾い反映する人を大学生や専門家をお願いする)

<本会への意見>

- ・本会を定期開催、継続開催してほしい。
- ・ファシリテーターや議事録係、時間管理が必要。
- ・本会に参加する人集めが必要。
- ・本会を発端に行動する人 (事業活動) が出てくればよい。
- ・本当のローカルな人たちはこのような会にこない。その人たちの意見をどうやって拾うのか。(青年団やJC、消防団など若い声を集める)
- ・オンライン開催時の運営方法に工夫が必要。
- ・運営ボランティアを募集する。
- ・一つのテーマで議論すると関係して繋がっているテーマについて話しにくい。
- ・会のゴールが見えるといい。
- ・自分のことについて考えさせられた。
- ・色々な人の意見を聞いてよかった。
- ・安心して意見を話すことができた。
- ・若い世代の意見を聞いて良かった。若い世代の声を集めていくことが必要。
- ・今困ってる人のケアと、サポートはもちろんだが、立ち上がろうとしている人たちが意見交換をして、議論をリードしていくことは必要。
- ・今は他の地域に出ているが、珠洲のことが気になり、「意見を交わしたい、どうなっていくのだろう、みんなはどんなことを考えてるんだろう。」ということをすごく共有したいと思っていると思う。
- ・珠洲市民ではないが、今この先も珠洲との関わりを持ちながら生きていきたい。そういう人も参加できる場所があるのはすごくありがたい。より密に関わることができたらいいな。
- ・会をアーカイブして、誰でもいつでも見れるようになればいいな。